

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	家庭総合①	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> 生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、保育・福祉、衣生活、住生活についての知識を身に付けている。 家族・家庭、保育・福祉、衣生活、住生活における生活の営みに必要な技能を身に付けている。 	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 学習プリントの完成度 作品の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 作品(製作過程を含む) 学習プリントの完成度 授業中の回答 話し合いの中での発言 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での説明を聞く態度 学習プリントへの取り組み 実習への取り組み 話し合いの中での発言 出席状況 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	これからの 生き方と家族	①生涯の生活設計	定期考査①	13
	5月		②家族・家庭と社会のかかわり		
	6月	次世代を育む	③ともに生きる	定期考査②	15
	7月		①子どもの発達		
	8月		②子どもの生活		
	9月	衣生活をつくる	③子育て支援と福祉	定期考査③	15
10月	①人の一生と被服				
11月	②被服材料と管理				
12月	③これからの衣生活				
後期	1月	住生活をつくる	④被服の製作	定期考査⑤	17
	2月		①人の一生と住まい		
	3月		②住生活の計画と選択		
	4月				
	5月				

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・家庭科は実験・実習など、実践や体験を通して学ぶことを重視している教科です。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくと提出が期限までにスムーズにできます。

・定期考査④は実施せず、被服の作品製作による評価とします。

6 教科書・副教材

高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)
生活学-Navi- (実教出版)

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	家庭総合②	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 生活を主体的に営むために必要な高齢者との関わりと福祉、食生活、持続可能な消費生活・環境についての知識を身に付けている。 高齢者との関わりと福祉、食生活、持続可能な消費生活・環境における生活の営みに必要な技能を身に付けている。 	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の成績 学習プリントの完成度 実習手順の正確性、完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 作品(製作過程を含む) 学習プリントの完成度 授業中の回答 話し合いの中での発言 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での説明を聞く態度 学習プリントへの取り組み 実習への取り組み 話し合いの中での発言 出席状況 生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	充実した生涯へ	①超高齢社会の中で生きる	定期考査①	13
	5月		②高齢期の生活		
	6月	食生活を作る	③高齢社会を支える	定期考査②	15
	7月		①人の一生と食事		
	8月		②栄養と食品 ・人体と栄養 ・炭水化物 ・脂質 ・たんぱく質 ・無機質 ・ビタミン ・その他の食品	定期考査③	15
	9月		③食生活の安全のために ④食生活をデザインする		
後期	10月	※調理実習を2回程度行なう		定期考査④	18
	11月				
	12月	経済生活をつくる	①私たちの暮らしと経済	定期考査⑤	17
	1月		②消費者問題を考える		
	2月		③持続可能な社会を目指して		
3月					

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・家庭科は実験・実習など、実践や体験を通して学ぶことを重視している教科です。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくと提出が期限までにスムーズにできます。

6 教科書・副教材

高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる (第一学習社)
生活学-Navi- (実教出版)

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	服飾手芸	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・手芸の種類、手芸の変遷、各種手芸の技法、表現に適した材料についての知識を身に付けている。 ・服飾への活用を目指し、各種手芸の技法、表現に適した材料や手芸技法に関連する技術を身に付けている。 	美的価値が高い作品製作及び合理的な作品製作のための課題を発見し、その解決に向けて効果的な表現方法を考察し、表現することができる。	各種手芸の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的に取り組むことができる。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成度 ・学習プリントの完成度 ・実習における製作手順の正確性 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品(製作過程を含む) ・学習プリントの完成度 ・授業中の回答 ・話し合いの中での発言 ・実習レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での説明を聞く態度 ・学習プリントへの取り組み ・実習への取り組み ・話し合いの中での発言 ・出席状況 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	手芸の種類と特徴①	手芸の移り変わりの概要		13
	5月	手芸の変遷と暮らしの背景 手芸品の製作			
	6月	手芸の種類と特徴②	手縫いによる基礎作品の製作		15
	7月	手芸品の製作			
	8月	服飾材料としての各種手芸の技法	ミシンと手縫いによる基礎作品		15
	9月	手芸品の製作			
後期	10月				18
	11月				
	12月	服飾文化の伝承と創造	服飾にかかわる伝統工芸		17
	1月	手芸品の製作	応用作品の製作		
	2月				
	3月				

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

授業のほとんどが製作実習となります。根気よく製作に取り組み、作品を完成させて提出することが単位認定のために必要です。作品は、原則として授業内で完成させます。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくと提出が期限までにスムーズにできます。

6 教科書・副教材

服飾文化 (実教出版)

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 服飾文化 (2単位)

1、教科書・副教材

服飾文化 (実教出版)

2、科目の目標

私たちの生活における服飾の役割について理解を深めるとともに、製作を通して縫製の基本技術を学び、服飾文化を創造できる実践的な態度を身につける。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	服飾の変遷と暮らしの背景	服飾の移り変わりの概要	/	13	
	5月		手縫いによる基礎作品の製作			
	6月	個性とファッション	個性の表現と服飾		/	15
	7月		ミシンと手縫いによる基礎作品の製作			
	8月		着ることと装うこと			
9月		応用作品の製作				
後期	10月	服飾文化の伝承と創造		/	18	
	11月					
	12月		服飾にかかわる伝統工芸		/	17
	1月		応用作品の製作			
	2月					
3月						

4、評価の方法

授業への取り組みと出席状況、学習プリント、作品の提出と完成度を総合的に判断して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

授業の大半が実習となるので、根気よく製作に取り組み作品を完成させ提出すること。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	保育基礎	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。 保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。 	<p>子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。</p>	<p>子どもについての関心を持ち、意欲的に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。</p>
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①②④⑤の成績 学習プリントの完成度 作品の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査①②④⑤の評価該当箇所の成績 学習プリントの完成度 作品（製作過程を含む） 授業中の回答 話し合いの中での発言 実習レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での説明を聞く態度 学習プリントへの取り組み 実習への取り組み 話し合いの中での発言 出席状況 生徒の自己評価

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前期	4月	子どもの保育	保育の意義 保育の方法 保育の環境	定期考査①	13
	5月				
	6月	子どもの発達	子どもの発達の特性 子どものからだの発達 子どもの心の発達	定期考査②	15
	7月				
	8月				
9月	子どもの生活	子どもの生活と養護 生活習慣の形成 健康管理と事故防止	/	15	
10月					
後期	11月	子どもの文化	子どもの文化の意義と支える場 子どもの遊びと表現活動	定期考査④	18
	12月				
	1月	子どもの福祉	子ども観 子どもの福祉 子育て支援	定期考査⑤	17
	2月				
	3月				

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

- ・講義と実習を通して保育の知識や技術の定着をはかります。授業に参加することが大切です。
- ・授業プリントはその都度、授業内で取り組んでおくと提出が期限までにスムーズにできます。
- ・年間を通じて、折り紙やカード、手作り玩具、絵本の読み聞かせなどの実習や発表があります。
- ・定期考査③は実施せず、作品製作による評価とします。

6 教科書・副教材

保育基礎 (実教出版) 生活学-Navi- (実教出版)

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名 **フードデザイン (2単位)**

1、教科書・副教材

フードデザイン新訂版 (実教出版) 生活学-Navi- (実教出版)

2、科目の目標

食の安全に留意し、健康的な食生活を送るための栄養、食品、調理などに関する知識と技術を身につけ、実践していく態度を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容		考查範囲	時数(予定)
前期	4月	食生活と健康	食事の意義と役割	定期考查①	13
	5月	栄養素のはたらき	5大栄養素および水の機能と代謝		
	6月	調理の基本	調理上の性質および調理による成分の変化 食品衛生	定期考查②	15
	7月	食品の特徴	食品の選択・適切な取り扱い	定期考查③	15
	8月	調理実習	調理実習 5回		
9月					
後期	10月	食品の特徴	栄養素のはたらき 食品の特徴 調理に必要な知識と技術	定期考查④	18
	11月			定期考查⑤	17
	12月	料理様式とテーブルコーディネート	日本料理、西洋料理、中国料理の特徴 テーブルコーディネート		
	1月	調理実習	調理実習 5回		
	2月				
3月					

4、評価の方法

授業への取り組みと出席状況、実習への参加状況、プリント、定期考查での学習成績を総合的に判断して評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

講義と実習を通して知識の定着をはかります。出席することが大切です。毎時間の取り組みを大事にし、プリントや課題は必ず提出するように取り組んでください。